

第2回小牧市教員の多忙化解消推進委員会会議録

1 開催日時	令和3年12月21日(火) 午前10時00分から
2 開催場所	小牧市役所本庁舎 301会議室
3 出席	大藪委員長、細副委員長、前原委員、石川委員、福田委員、光部委員、近藤委員、梶田委員、江本委員、山口委員、高橋委員
4 欠席	
5 事務局	■学校教育課 堀田課長、加藤管理指導主事、大久保指導主事、安部係長 ■教育総務課 小川課長
6 傍聴者	0人
7 議題	(1) 小牧市教員の多忙化解消プランの進捗状況について (2) 教職員の働き方改革保護者向け文書について (3) その他

<開会 午前10時00分>

1 開会

(堀田課長)

皆様、本日はお忙しい中、ご出席いただきましてありがとうございます。

定刻となりましたので、ただ今より、「第2回小牧市教員の多忙化解消推進委員会」を開会いたします。

先回に引き続き、司会を務めさせていただきます。学校教育課長の堀田です。よろしく申し上げます。

<資料確認>

まず始めに、本日の資料を確認させていただきます。

・次第

・市内小中学校の登校時刻と勤務開始時刻

・教職員の働き方改革保護者向け文書

・座席表

でございます。

不足などがございましたら、お申し出ください。

傍聴について

本委員会は、先回確認させていただきましたが、小牧市審議会等の会議の公開に関する指針に基づきまして開催するものでございます。そのため、個人が特定可能な議題などを除いて原則公開として開催させていただきますが、本日この会議の傍聴者は、おりませんのでよろしくお願いいたします。

それでは開会にあたりまして、加藤学校教育課管理指導主事よりあいさつ申し上げます。

(1) あいさつ

(加藤管理指導主事)

おはようございます。第2回小牧市教員の多忙化解消推進委員会にご出席いただきましてありがとうございます。

今年度第2回目ということになりますが、どこまで進めてきたかの進捗状況の確認していただく中で、次年度に向けてどのようなことができるのかといったことも含めてご意見いただけたらと思います。

全国的に教員の多忙化が話題となり、ブラックという言葉が使われているということもありますが、教員採用試験の志望率も下がってきております。そうしたことも含めながら、少しでも働きやすい環境づくりをとということで小牧市も取り組んでいきたいと思っておりますので、ぜひともご意見やさまざまなアイデアをいただけたらと思いますので、よろしくお願いいたします。

県も時間外勤務45時間超をなくしていこうという形で話を進めておりますが、小牧としても45時間を超える教員というのは毎月何名かおり、割合としてもなぜか上がってきている状況にもあります。そうしたことを少しでも客観的に捉えられるようにということで、2学期以降パソコンでの出退勤管理を各校で行っております。それらのことも含めながら現場の先生方の声、もしくは保護者の声などさまざまな声をいただきながら次年度進めていきたいと思っておりますので、短い時間にはなりますが、活発なご意見をいただけたらと思います。

よろしくお願いいたします。

(堀田課長)

続きまして、大藪委員長よろしく申し上げます。

(大藪委員長)

おはようございます。本年度この会の委員長を務めさせてさせていただいております、米野小学校の大藪です。よろしく願いいたします。

先ほど加藤管理指導主事からも話がありましたように、10月からコンピュータを使って出退校管理をしています。学校に在籍しているということで、出退勤ではなく出退校だと思えます。出退勤では勤務時間になってしまうものですから。出退校時刻のタップと申しますか、自己申告で朝来たら押す、帰るときに押すというコンピュータの一括管理になり、管理職もリアルタイムで先生方の学校に在籍していた時間がわかるようになりました。ただ、コンピュータで管理するとそのままの時間が出ます。ですので、在籍時間という観点ではあまり減っていないのかなと思われるかもしれませんが、実際は管理職がきちんと管理し、リアルタイムで話をすることができるので、進歩といえば進歩だと思えます。

前回は部活動の改革における課題ということでお話しいただきましたが、今回は教員の勤務開始時刻と子どもの登校時刻のすりあわせということで、今回につきましても学校の様子もうかがいながらそれぞれご意見を賜ればと思っております。よろしく願いいたします。

委員の紹介

(堀田課長)

それではここで、先回ご欠席の方で、本日ご出席いただきました委員の方、1名をご紹介します。

小牧市PTA連絡協議会 福田 波 様

2 議題

(堀田課長)

それでは、ここからの会議の取り回しにつきましては、大藪委員長にお願いしたいと思います。よろしく申し上げます。

(1) 小牧市教員の多忙化解消プランの進捗状況について

(大藪委員長)

それでは、司会を務めさせていただきます。

議事、要項を見ていただくと、議題（１）に先ほどもお話ししました市内の小中学校の登校時刻と勤務開始時刻についての資料があります。それを見ながら事務局より説明いただきます。よろしくお祈いします。

<事務局より「市内小中学校の登校時刻と勤務開始時刻」の表の説明>

（大藪委員長）

ありがとうございました。この資料の見方ということで、3点説明がありました。

一昨年度より、中学校を中心として登校時刻の見直しが進められてきてはおります。小学校については、なかなか見直すことが難しい現状もあります。通学団で登校しているので集合時刻等の課題や、あるいは保護者の出勤時刻等のことでもありなかなか難しい状況ではあります。しかし、そこに手を入れていかなければいけない状況にもあります。

あと、まだPTA総会も開けていないという状況で、全体の場でご理解いただくこともなかなか難しい状況ではあります。ただ、一歩でも前進していかなくてはいけないことでもありますので、今事務局からの提案がありましたけれど、先生方の目でこの資料を見ていただきながら、どう改善していくとご理解をいただきながら進めていけるのかなということも含めながら忌憚のないご意見いただけるとありがたいと思います。よろしくお祈いします。

まず、資料をずっと見ていただいて、何か気づかれることがありましたらご意見をいただけるとありがたいかなと思います。どうでしょうか。

（細委員）

学校の先生の立場ということですが、我々父兄の立場で話をさせてもらうかもしれません。

資料の見方で、例えば最初の学校の登校時刻と勤務時刻の表の中で一つ例をとってみます。E小学校が他の学校と比べると登校時刻と勤務時刻の間があいている。これが今後どのように検討されているか2枚目の資料を見てみると、何も書かれておらず白紙になっている。これを教育委員会として、事務局としてこうした学校にどのような指導をしているのか。特に指導はしていないのかどうか。あつたら説明をいただきたいと思います。

（大藪委員長）

関連してありますでしょうか。よろしいでしょうか。それでは事務局お祈いします。

(事務局)

教育委員会ではなく、小牧市教員の多忙化解消推進委員会の提言として、校長会議等で校長先生方にお話しさせていただき、市全体として進めていけたらと考えております。

(細委員)

その中で、今後もこのように白紙の状態でのいいのか。それとも、先ほど委員長がおっしゃったようにコロナの関係で会議も何もできていないから、全然検討できていないからそういうことを容認しているのか。事務局としては学校に対して何か対応をしているのかどうか教えてください。

(事務局)

校長会議を通して、勤務時刻と登校時刻をできるだけ近づけていくようにという話は昨年度からさせていただいております。ただ、やはりそれぞれ地域によって難しいところがありますので、すぐに進められるところと、どうしても時間がかかってしまうところがありまして、先ほどのように予定が空欄になっている学校もあります。ですが、すべての学校にこの話はさせていただいております。

(大藪委員長)

各小学校、中学校ともそうなんですけれど、ご理解を得なければいけない部分があります。保護者のご理解、地域のご理解、そういう部分をどうしていくのかということもありますし、教員も同じように子どもを抱えております。子どもを送り出して学校に出勤しないといけないということで、子どもが登校するとき待ち構えて勤務を始めると、そういうことが難しい状況にもあるわけです。ですので、そのあたりのところをどうしていくかということで、それぞれの学校でも思い悩んでみえると思います。

今回、改善されたという学校もありますので、どのように改善をしていったのかということも含めてお話しいただけるとありがたいなと思っております。梶田委員、どうでしょうか。

(梶田委員)

今年改善したわけではないですが、例えばG小学校のように7時台から登校というのを8時台まで下げていったというのが、3年くらい前だと思います。私が赴任する前だと思います。とりあえずは、8時から8時10分の間に教室に入ろうというのを、校門をくぐろうぐらいに緩くしながら、少しずつやっているのですが、8時までになった経緯としても保護者に説明をしながらいろいろやってきたのですが、一部の保護者からはかなり辛辣な反対意見が出たそうです。要するに保護者も出勤しなければいけない。子どもたちが家にいるという状態は困るということで、やはりその部

分で折り合いをつけたのがここということです。保護者の中には、例えばこれを下げたとしても自分が出勤するから子どもたちを早く出して自分はお仕事に行かれるという方もみえて、小学校1年生、2年生が早くから外に出されてしまい、家の外で待っているというのにも危ないということもあります。今までそうした部分を学校が請け負ってきまして、それで何となくシステムができあがってしまっている部分があり、それをまた両側から歩み寄って落とすところを決めなくてはいけないので、今はここで落ち着いていますけど、次にどう動かしていくかは検討中です。

(大藪委員長)

3年前から改善してきていて今に至っていると。様々なご意見をいただいているということですね。

(梶田委員)

はい。

(大藪委員長)

他の学校はどうでしょうか。進んでいるということについては難しいかもしれませんが、それぞれ学校の事情にもよると思いますので。中学校のコーディネーターの光部様がおみえになっていますが、学区の中学校はかなり改善されていますね。そのあたりのこと何かわかりませんか。

(光部委員)

そうですね。地域評議会等でもそういったことは何も聞いておりませんので、私ではわかりかねます。すみません。

(大藪委員長)

そういうことですね。おそらく大きな検討はどこかでされていると思います。なかなか難しいところではあります。

本当は、大体どれくらいを目安で考えていきたいと思いますというのがこの会に出せるといいのですが、この表を見るとどこに近づけていうのは見えてきそうですね。今のところ、小学校でいうと7時55分というラインが大分定まっています、中学校では8時というところも増えてきています。ここまできると、いきなり10分というのはなかなか難しいかもしれません。少しずつということも考えていけないかもしれません。実際H中学校はすごいですよ。教員の勤務後に登校してくるということで、これは完全に理想的なんですけど、小学校ではちょっと難しいですね。ですので、ある程度、どこまで頑張っていきたいと思いますということを念頭にもってそれぞれの学校で進める必要があると思うのですが、どこかうまく進められたという学校はありませんか。現在の勤務校でなくても、前任校でもかまいませんので。気づかれたことでもかま

ません。2枚目以降には、実際にこのようにして変更を行ったという実践例や、来年度以降の見通し、計画をしっかりと出しているところもありますが、これを見ると大体8時ではないでしょうか。どうですか。8時にできそうですか。これはあくまでも予定ですので、いきなり8時というのはなかなか難しいかもしれませんが。

(山口委員)

本校は、8時から8時10分の間に児童が登校するようにいろいろ指導を行っています。ただ、実際は8時前に登校している児童もいます。そういう児童に集まってもらい、何分に出発しているのかなどを聞き取り、少しずつやりとりを重ねているところですが、お話を伺っていて、私たちの考えだけで進めることもできないですし、地域の方のお考えを聞きながら、そこはすり合わせに時間がかかる取組だということを感じています。

この表を見せていただくと、黄色の部分の赤い矢印と青い矢印が少しずつ寄っている傾向にはあると思うので、小牧市全体でこういう取組を進めていっていただいていることにありがたいと感じています。

(大藪委員長)

ありがとうございます。F小学校は勤務開始時刻が早くなっている。逆のパターンですけど、要は勤務時刻から近づけようとしているわけですね。

(高橋委員)

今まさにJ小学校では登校時刻を変更している最中で、先週ちょうど通学団会があり、一部の通学団は今来ている時刻よりも少し遅めに集まって出発しようということ指導しているところです。事前に保護者にもこのようにしていきますとお知らせした上で進めています。

ただ、こうして5分だけ遅らせることによって保護者から連絡が来るというケースもありますので、そこは話をしながら、どうしたらいいかということをお互い相談しながら進めています。

通学団担当が今週と先週の通学団後に校門に出て、来た班の確認をして、少し早い班には再度出発時刻の確認をしています。

(大藪委員長)

少しずつ変えてみえるということですね。他はどうでしょうか。保護者の立場からどうでしょうか。石川様、お願いできますか。

(石川委員)

特に何も無いのですが、せっかくですので聞いてもいいですか。

小学校全般、子どもの方が先生より絶対に早く来ているじゃないですか。みなさん

朝残業しているということですよ。それがもうルールになっている。どうしようもないですよ。実際に管理職ではない先生方は、ご自身の勤務開始が8時15分と知っているけれど、それは表面上のことだよとみんな思っているということですよ。

(大藪委員長)

勤務開始直前という方もみえますけど、ほとんどの方が少し早く来ています。ただ、それは勤務時間という言い方では、この矢印が示しているように開始時間が8時15分や20分ですので、ここからが勤務時間ですので、おっしゃられる通りです。

(石川委員)

では、遅残業より早残業の方が多いいですか。先生方は。

(大藪委員長)

両方ともあります。どちらかといえば、中学校は部活動があるので遅いのではないのでしょうか。小学校は、逆に勤務時刻に合わせて部活動等も終わるので帰りはうまくいくんです。しかし、中学校の方は今度はこれが難しい。ですから、まずは勤務時刻と登校時刻のすり合わせ、ここから始めていきましょうということだと思います。それぞれ小学校と中学校で抱えている問題が違います。

(石川委員)

小学校は、事故とか事件があるといけないから、子どもだけ学校にいるというわけにはいかないという雰囲気が強いということですよ。早出担当の先生とか、みなさんが雰囲気ルールをつくってやっているんですかね。

(近藤委員)

基本、子どもが教室に来るときには教室で待っている担任がほとんどなので、誰が早く来ているというよりは、子どもが教室へ入ってくる時間には教室にいる担任がほとんどです。

(石川委員)

今でいうと、パソコンをつけていないけれど、実際にはいるということですか。

(近藤委員)

出退勤システム。

(石川委員)

はい。

(近藤委員)

今は、だからそれを出校にしているのではないですかね。だから、最初に加藤主事がなぜか在校時間が延びていますという話をされたけれど、厳密にやっているとやは

りということではないですか。

(石川委員)

だんだん現実が見えてきたと。だとすると、本来の勤務時間の把握が先だということなんですよ。減らす前に。本当はもっと多いということですよ。

(大藪委員長)

勤務時間というのは決まっているのですが、さっきも言いましたように時間ぎりぎりという方もみえますけど、やはりこちらとしては余裕をもって始めないといけないということで。準備もありますし、様々な理由がありますけれども。

実を言うと、自分が子どもの頃はもっと早く学校へ行って、校舎に入らないで運動場で遊んでいました。それが普通だったんです。ですから、昔の先生はそのようなことは考えずに、それがあたりまえのようにして今までできてしまったのですが、それではいけないという時代になってきたということです。多忙化解消というのは、教員にはあまりそぐわない、なじまない言葉だったのですが、そういうことではいけない時代になってきました。

ですので、なるべく理解を得ながら、どうしていこうかということで今進めている最中ですので、保護者の方のご理解が得られれば勤務時間内の登校時刻にしたいのですが、それを言うわけにもなかなかいかない。実際の現実があるものですから。ですからみなさん困ってみえて、どう進めていくとよいのかということでこの会も開かれております。

(石川委員)

本当にお疲れ様ですしか言うことがないです。

(大藪委員長)

ありがとうございます。

(石川委員)

実際は、子どもの時間より絶対に先生の時間の方が外側にあるわけですよ。でも、人は増やせない。増やさないんですよ。それだともう本当にお疲れ様ですという感じですよ。

(大藪委員長)

ご理解いただきありがとうございます。

(江本委員)

自分は、現在の勤務校に以前勤務していて、また戻ってきたら、少し子どもの登校時刻が変わっていました。昔はそれこそ8時までに門に入れと言って生徒指導的に声をかけていましたが、すごくゆったりと子どもたちが登校してくる姿を見ると、少し

登校時刻を遅らせていってゆったりと朝が進められるのはいいなと思います。

校長も登校時刻と勤務開始時刻を一緒にしようということで努力していたのですが、実際は結構早く登校してくる子どももいます。

僕は名古屋から通勤しているので、6時20分に出れば7時過ぎに着くのですが、6時40分に出ると渋滞にはまって8時ぎりぎりになってしまうので、自分の通勤事情を考えても早く来てしまうというか。

あと、例えば本校で早く来ている先生で、やはり朝はすごく仕事はかどるから1時間早く来て仕事をしたいという先生も結構おり、そういう先生は逆に本当に定時で帰っていくなど、先ほど言った早く来なければいけないというよりも、朝が得意な先生も結構みえるかなという気がします。

実際、本校も8時10分ぐらいでいいんだよと言いながら、早く来る子は7時20分くらいからやってきて、結局門の外で待っているの、自分も7時過ぎくらいに来て新聞を取って、それで子どもがいたら門を開けてあげるという感じです。

学校の取組として登校を遅くしたことで、子どもたちが本当にゆっくりと来られている感じはとていいことではないのかなという気が、感想になってしまうのですがしています。

(大藪委員長)

ありがとうございます。表からいうと、F中学校やH中学校はもう理想的なんですけれど、このようにしていきたいわけなんです。本当は。これを小学校でやれるかというところなのですが、かなり反発があるのではないかと思います。

(近藤委員)

通学路を歩いている登校時間というのは、現在は基本、管理下ですよ。事故が発生したときなど、登校中だったら管理下の事故になりますよね。ということは、そこからもう教員は管理を始めているととらえている。

(事務局)

正確に言うと外ですね。

(近藤委員)

制度上は、本当は外のはずなんです。

(事務局)

ただ、登下校についてはスポーツ振興会とか、けが等の補償の対象にはなってくるので、内という扱い。

(近藤委員)

文科省が数年前に学校の教員の仕事の仕分けをしたときに、登下校に関しては学校

の仕事ではないと文科省は言ったのですが、結局どうなのかというと、小学校ではめごとが起きて保護者の方からお叱りを受けたり、教員が指導したりしているのは通学団の問題が多い。今年中学校へ移っても、やはり中学生の登下校の様々な態度についてお叱りを受けるのも登下校中のことが多く、未だに学校でそれに対応している時間は結構なものがあります。

本校は、子どもたちを校舎に入れる時刻と教員の勤務時間にずれはあるんですが、結局そのずれがどうこうよりも、登下校中の時間も、子どもが家を出て学校に向かい始めたその時刻から学校に責任が発生している現状を考えると、これだけを考えてもどうなのかなと思ってしまいます。

さっき大藪委員長も言われたように、中学校は小学校より勤務開始時刻が早いけれど、それでは夕方早めに勤務が終了したからといって仕事が終わられているかということ、そこから部活動が始まっているわけなので、朝のところだけを見ていてもどうなのかと。確かに、ここは変更しましたというのは残りますが、先生たちが本当にこれで楽になるのかなということは思います。

(大藪委員長)

ありがとうございます。楽になるかならないかについてはやってみないとわかりません。ただ、時刻が近づいていくことによって、今までかなり早く来ていた人がある程度状況を見ながら進められるのかなということだと思います。先ほどの江本委員の話ではないかなと思います。多くの子供が早くから来ていたら、やはり何か起きるかもしれないので、早くから行こうかなという方もでてくるのではないかなと思いますし、多くの子が教員が来る勤務時刻と同じような時刻に近づいていけばほどほどになるのかなというのはあります。

ただ、どうでしょうかね。私ばかり話していてもだめですので、高橋委員どう思われますか。

(高橋委員)

同じ学年を担当している先生が小さいお子さんを抱えてみえて、朝学校に来られるのが8時過ぎ。今1年生を担当しているのですが、やはり先生は早く来たいけれどもどうすることもできない。逆に、早く来ている私たちが教室のセッティングをしているのを申し訳ないと思われていて。

ですから、今こうして少しずつ登校時刻をさげることによって、そうした先生たちの負担というか気持ちを少し和らげられればいいかなと。これからきっとそうした先生たちも増えてくると、今若い先生が多いので、女性の先生たちが小さいお子さんを抱えながら仕事をしていく上では、そういうところの配慮をしていけたらいいのかな

と思います。

(大藪委員長)

ありがとうございます。現場の先生の声だと思います。どうでしょう。山口委員のところもお子さん小さいですね。この勤務時間をどう思います。子どもの登校時刻はどうしようもないと思うのですが。

(山口委員)

送り出す側の立場も想像ができますし、僕は勤務している、迎える側の立場も想像できるので、やはり何度もコミュニケーションをとってすり合わせをしていかなければ、ぱっとここだと決めきれないなと思います。

今お話しを伺っていて勉強になったのは、登校時刻と勤務開始時刻が寄っていけば寄っていくほど、できればF中学校やH中学校のように重なってしまえば、子どもたちの安全にもつながっていくんだなということは感じました。

私たちの働き方のことはもちろんですが、登校時刻に子どもたちに何かトラブルがあった場合に、勤務開始時刻が近ければそろっているスタッフで駆けつけることができると思うのですが、勤務校ではすごく長い距離を歩いてくる児童もいて、途中で疲れてしまって動けなくなってしまう1年生など、コンビニから電話がかかってくることがあります。助けに行こうと思うのですが、勤務時刻前でなかなかスタッフがそろいっていないと担任の先生は行けない。この先生も行けないということも実際に経験しました。

9月には、コロナウイルスが猛威を振るっていた時期で、保護者から判断を仰ぎたいという電話がかかってきました。お母さんが昨日まで熱があったけれど、今日は下がっているけどどうでしょうかという電話がかかってきたときに、登校時刻と勤務開始時刻が少しずつでも寄っていくと、そうしたことにも迅速に対応でき、子どもの安全につながるような勤務体系になるのかなと伺っていて思いました。

(前原委員)

少し離れた立場で言うと、親の立場でものを言うとする、この表を親が見たら、登校時刻を一生懸命先生方の勤務開始時刻に寄せようとしているんですけど、現場のことを考えずに勤務開始時刻をもっと早くできないのかという声はないんですか。

登校時刻を遅くしようとしている学校はたくさんあるのに、勤務開始時刻をもっと早くしようという動きはないのですかということであると、先ほども出ましたけれど、小さいお子さんを抱えているという、山口委員のところもそうだと思うのですが、それなら石川委員が言われたように人を増やすという手も本当にどうにかならないのかなとは思っているのですが。この勤務開始時刻を一つにするのではなくて、要するに、

早く来られる人の勤務開始を前にしておいて、どうしてもお子さんのことがあるから早く来られないと人を後にするという、このパターンをしたらどうだという保護者からの声 cameたらどうしますか。こうすれば重なるじゃないかと。

ただ、帰りの方のことは考えてないですよ。部活動があるとか。要するに、時差勤務があるとか、そういう弾力的な考え方はできないのかという保護者からの声が出たら、考える余地はあるのでしょうか。

(大藪委員長)

これは確か条例か法令かわかりませんが、決まっていますよね。勝手なことは多分できなかったと思うんですけど。これは調べてみないとわかりませんが。今ご意見賜りましたので、誰か勉強してみえてわかってみえる方みえますか。

(前原委員)

保護者の立場で言う人は言うのではないかと思ったんです。この表を見たら。F小学校だけが5分早くなっているのですが、それはなんとかならないのかという親のわがままで言う人がいるだろうなと思って言いました。私の意見ではありません。

(大藪委員長)

今のところ、そういうご意見を賜ったことはないですよ。

(江本委員)

そういう声を聞いたことはないですね。

(大藪委員長)

今まではないんですけど、これからはわかりませんが。改善を進めていこうとしている学校は、この表を保護者に見せれば、考えていかなければいけないなということになると思いますし、改善の余地のないところまで頑張ってみえる学校もあるものですから、どうかなというところですけど。それぞれ学校によって事情が違うので。

共働きの家庭が非常に多くて、朝自分が出勤してから子どもを出さなければいけないというような状況を作ってもらおうと困るといふご家庭が多い学校もあるんです。実際は。そのような状況でも中学校はどうしてできたのかという、一人で登校できるからです。でも、小学校は通学団で集まります。さらに、その通学団が集まる場所にも保護者の方が送ってみえることもあり、仕事を遅くしてわざわざ集合場所にみえて送り出しをしてから仕事に行かれる方もみえるので、非常に難しいです。一つにまとまらないというか。だから、それぞれ学校ごとに頑張ってもらおうしかないかなということだと思いますけど。

これは非常に難しい問題を抱えているのですが、一応この表を見ると、先ほども言ったようにどのあたりの時刻にしていましようかというのは少し見えますよね。こ

れを見ると大体8時前後が多いかなと思いますけど。

(福田委員)

お伺いしてもよろしいですか。

各小学校の登校時のことについて、登校する際にシルバーさんとか近所の方とか保護者の方ですとか、そういったボランティア的な方は必ずついているという考えでよろしいでしょうか。私の近所の学校は、たくさんそういったジャンパーを着た人がいらっしゃるんですけども、各小学校にはそういった方がついていらっしゃいますか。

(近藤委員)

学校によると思います。

(福田委員)

学校によりますが、大体どこの学校にもいらっしゃるということですか。例えば、〇小学校などは登校時間が30分という長い間のうちで登校しなさいという形ということは、おそらく学校からかなり遠い地域から来ている子たちもいるのだと思います。その間に何か問題が起きたときとかそういうことに関して、先ほど近藤委員がおっしゃったように、登校時間における事故等はどう対応するのかということなので、大体ついていらっしゃるということでもよろしいのでしょうか。

(大藪委員長)

はい。ですが、パトボラの方に責任を負わせることはできないですよ。

(福田委員)

そうなんですよね。見ていただくという形ですよね。

(大藪委員長)

それはあくまでもボランティアの方ですので、やはりそういうことを考えていくと教員が対応せざるを得ないという部分になります。

(福田委員)

ありがとうございます。

(大藪委員長)

助けていただけるだけということですね。そういう方々は。

あと何かご意見ありましたら。ご質問でもかまいませんが、よろしいですか。大体1時間近くたちまして、同じ話題でずっと進んでおりますが。一つにまとめるということになると、この表を見ると8時前後から登校かなというのは少しは見えてきます。できるだけ登校時刻と勤務開始時刻が近づいていくといいかなということもありますので、それを踏まえながら、それぞれの学校で努力していただくのがいいかなということだと思います。ただ、線引きは少し難しいですね。ということで、これは難しい問

題がはらんでおりますし、先ほども言いましたように、PTA総会もまだ開かれない状況なので、なかなかどうかなということも含めまして今後の課題ですが、一步でも前進をしないとイケないかなということは思いますので。そうしたことも含めながら、これぐらいということによろしかったですか。

そうしましたらご意見賜りましてありがとうございました。もう一つ議題がありますので、お願いしたいと思います。

(2) 教職員の働き方改革保護者向け文書について

(大藪委員長)

(2)の保護者向け文書についてに移りたいと思います。

事務局より資料について説明をお願いします。

＜事務局より「教職員の働き方改革保護者向け文書」の変更点の説明＞

(大藪委員長)

赤い部分が今年度のものとは違う点、もしくは付け足しをされた部分だということでもありますけれども、どうでしょうか。何かご意見ありましたら。

市教委から明確に出ているということですね。今、登校時刻の見直しを進めているということで力強くここに書いてありますので。これを基にしながら、学校も市教委から出していただくと進めやすいかなということだと思いますので、このような文面が載りますけどよろしかったでしょうか。

今後も学校や地域の実情に合わせて登校時刻を見直していきますということで、先ほどお話ししていただいた部分がここに如実に表れているということでもありますけれども、よろしいですか。このように進めていくということで。ご意見もないようですので、これでお願ひしたいと思っております。

(前原委員)

少しお聞きしたいことがあります。加藤管理指導主事が冒頭に挨拶された、小中学校の教員を目指す学生が減ってきているということで、まだ愛知県はましですけども、岐阜や富山などはそれこそ。岐阜などは優秀な人材が愛知に流出してしまっているんですよ。岐阜とは少し絡みがあって、富山とも絡みがあるんですけど、2倍を切ってしまうんです。まだそれよりは愛知の方がましなんですけど、小牧がやっている取組の、例えば週に一度は定時退校日を設けることを推奨します。僕が小牧の現場にいたときは月一だったのが週一になっていますし、それから5番のところ

の8月10日から16日の閉校日のところは当番を置かずに閉鎖と。以前は当番を置いていたんですね。このような小牧の動きというのは進んでいるんですねきっと、愛知県全体からすれば。県の動きはこのような動きはあるのでしょうか。

(事務局)

基本的に、閉校日はかなり増えてきました。小牧は導入が遅かった方かなと思うくらいです。月一の定時退校日から週一の動きも、これは全県的な流れかなとは思っています。

ただ、それがどこでPRされているかというのは、実際問題にされてはいないので、教育実習などそうしたところで学生が実際の現場の様子を見ていってというのはあると思います。

(前原委員)

先日、愛知県教委の来年度の採用試験の説明会があったので行ってきたのですが、県教委も憂慮していて。どんどん手を挙げる学生や社会人が減ってきていて頭を悩ませていて。その一方で、マスコミでは残業代は出ないのに10時頃までは当たり前とか報道してしまうので。ブラック扱いされているので、どんどん減ってきている。うちの大学でも、やっぱりちょっとということをする学生が増えてきている中で、こうしたところを県全体で取り組んでいくといいのかなと。県教委の方も頭を悩ませてみえたので。小牧の取組は進んでいるのではないかと思い、話してみました。

(大藪委員長)

これは、学校閉校日というのはおそらく県下全体で一斉に行われていると思いますし、週に一度は定時退校というのは、これもどの学校でも進められているのではないかなと思います。小牧独自ではないような気がします。ありがとうございます。

そうしましたら、様々な意見は出てきましたけれども、まとめるということはなかなか難しいですので、今後市教委でも検討していただきまして、保護者の方にきちんと周知、理解がされるようお願いしたいなと思っております。

(3) その他

(大藪委員長)

(3)その他、事務局のほうで何か協議することはありますか。

(事務局)

1点だけよろしく申し上げます。第1回の議事とさせていただいた部活動のことについてですが、現在のところ予定としましては、来年度部活動検討委員会を設置する予定です。この会とも関わりが深くなってくると思いますので、またこちらで議

題にさせていただいたり、こちらでお話したことを部活動検討委員会へもっていったりということもあると思います。ですから、今後の状況などは随時報告をさせていただきますと思います。よろしく申し上げます。

(委員長)

ありがとうございました。

それでは、議事一切を閉じますので、司会を事務局のほうに返します。

(事務局)

長時間にわたるご審議ありがとうございました。今後の予定だけ説明させていただきます。

本日のこの会議の会議録を準備しまして、委員の皆様方に議事録を送付させていただきますので、内容について確認をお願いしたいと思います。

2点目ですけど、今議題となりました保護者宛文書の案について、一応4月吉日付という形になっております。実は去年、今年、コロナの関係で文書を出すタイミングを逸したこともありましたが、今の状況であれば4月早々に市教委から保護者宛という形で文書を出して、現場としても、市教委の方からもという形で少しバックアップできるような形をつくっていきたいと思いますので、よろしく申し上げます。

3点目ですけど、今後の多忙化解消プランの進捗管理についてですが、毎年委員の方をお願いしまして、プランの策定以降、推進委員会という形でこういう会議を年に2回ほど開催しています。来年度以降も多忙化解消プラン自体は登校時刻を見直すだけのものではなく、そのうちの一つについて話をさせていただきましたが、他の部分も少しずつやっていく必要がありますので、来年度以降も引き続き会は開催していきたいと思いますので、改めまして年が明けたところになります。引き続き委員のお願いをさせていただく場合がございますので、そのときはまたよろしく申し上げます。

それでは、これをもちまして第2回小牧市教員の多忙化解消推進委員会を閉会いたします。どうもありがとうございました。